✉～新 北部地域複合施設だより～

令和7年12月19日 第8号

みんなでつくる地域複合施設 回覧

■ワークショップを開催しました

地域活動拠点施設（仮称）岩津センターの整備にあたり、昨年度皆さんからお聴かせいただいた「声」をもとに、拠点施設に必要な機能について一緒に考えるワークショップを全3回にわたって開催しました。

ワークショップは、毎回5～6名に分かれてグループワークを実施し、各グループで活発に議論されました。

また、2回目、3回目には、他のグループの議論の結果を確認するギャラリーウォークを通じて、会場全体で多彩な議論がされました。

【第1回】「わたしたちのまちの“いいところ”と“ちょっと不便なところ”」

日時：9月7日（日） 午前10時～　　場所：岩津市民センター　2階体育集会室　　参加者数：28名

①アイスブレイクと意見の洗い出し

②多様な視点でのグループワーク

③成果の共有と共感の醸成

【第2回】「こんな場所があったら、もっと暮らしが楽しくなる！」

日時：9月28日（日） 午前10時～　　場所：岩津市民センター　2階体育集会室　　参加者数：21名

①多様な視点に立ったアイデア発想

②アイデアの共有と夢の施設マップ作成

③成果の共有と共感の醸成

【第3回】「みんなでつくる“わたしたちの拠点”」

日時：10月19日（日） 午前10時～　　場所：岩津市民センター　2階体育集会室　　参加者数：20名

①多様な視点に立ったアイデア発想

②アイデアの共有と優先度マップ作成

③成果の共有と共感の醸成

■ 第1回ワークショップの概要

テ ー マ:地域を知る・暮らしを見つめる「わたしたちのまちの“いいところ”と“ちょっと不便なところ”」
目　　的:参加者間で地域の魅力や課題意識を共有し、拠点施設に求められる役割を考える
　　参加者同士の交流を促し、ワークショップの雰囲気づくりを行う

1. 議論の主な成果

第1回ワークショップでは、「岩津地域の評価」「各施設の評価」について、さまざまな立場から多くの意見が飛び交いました。

1)岩津地域の評価(よいところ・課題)

■よいところ

四季折々の風景が美しい村積山や雄大な流れを持つ矢作川(自然が豊か)

学問の神様として親しまれる岩津天満宮
徳川家ゆかりの真福寺や平家ゆかりの岩津城址(歴史資産が豊富)

国道248号が地域を縦断している/豊田東ICが近い(主要道路へのアクセスがよい)

■地域の課題

公園はあるけど、ボール遊びができない、天候を気にせず遊べる屋内施設や夏場に水遊びできる場所が欲しい(子どもの遊び場が不足)

国道248号の慢性的な渋滞、花園工業団地への通勤渋滞(渋滞が多い)

バスの本数が少ない、自家用車がないと移動が困難(公共交通が不便)

2)対象施設の評価(よいところ・使いづらい点)

■よいところ

気持ちよく挨拶してくれる/困ったときに丁寧に教えてくれる(スタッフの親切な対応)

地域交流センターはインターネット予約ができる
地域福祉センターは無料で利用できる
(予約が取りやすい)

設備が整っているのに、
空いている(使いやすい)

■使いづらい点

トイレが和式で音が漏れる/部屋や廊下が暗い
(施設が古い)

期日前投票所となる際は満車になる
(駐車場が狭い)

集中して自習できる仕切りのある学習スペースが欲しい
図書館の蔵書数が少ない(図書室が不十分)

2 ワークショップの総括

拠点施設に求められる役割について、大切なポイントが見えてきました。

☑ 地域資源の活用と課題解決への貢献

⇒ 豊かな自然・歴史を活かしながら、「子どもの遊び場不足」や「公共交通の不便さ」といった、日々の暮らしで感じている課題の解決につながる施設となることが期待されています。

☑ ソフト面の継承とハード面の抜本的刷新

⇒ 「スタッフの対応の良さ」は高く評価されている一方、「施設の老朽化」や「駐車場の狭さ」を感じており、施設の刷新が求められています。

☑ どんな人でも安心して気持ちよく使える設計

⇒ 年齢や移動手段の有無に関わらず、「誰もが安心して利用できる」自分らしくいられる空間づくりが求められています。

☑ 30年後を見据えた持続可能性の追求

⇒ 社会の変化を見据え、将来にわたって地域に愛され続ける「持続可能な施設」とすることの重要性が、参加者に共有されました。

意見等をグループ化し、アイデアを発見

■ 第2回ワークショップの概要

テ ー マ:未来の施設を描く「こんな場所があったら、もっと暮らしが楽しくなる！」

目　　的:第1回で出た意見を踏まえ、暮らしを豊かにする施設の機能について、自由な発想でｱｲﾃﾞｱを出す具体的な利用シーンや体験を創造し、参加者間で共有する

1. 議論の主な成果

拠点施設に期待する具体的な場所や機能について、各グループで多角的な視点から活発な意見が交わされました。

①誰もが安心して集い、長時間滞在できる『交流・居場所』機能の強化

大人から子どもまで誰もが気軽に立ち寄れる居場所

長時間の滞在を可能にするコンビニ、カフェ

多世代交流を促す子ども食堂や、認知症のかたも集えるような交流空間

②多様な世代を支える『学び・仕事・子育て』支援

図書機能の充実と学習スペースやコワーキングスペース

妊産婦や乳幼児に関する健康と子育てに関する相談窓口

年齢を問わず利用できる屋内外の遊び場

不登校児童の居場所
会議・軽運動などに利用できる多目的空間

③地域全体の『安全・安心』を支える防災活動拠点

防災倉庫、備蓄倉庫、災害用トイレなど防災拠点機能

災害時に福祉避難所にもなり、衛生管理に必要な入浴施設整備

平常時から減災啓発につながる情報発信

④地域の魅力でつながる『文化・歴史発信』と『健康促進』

発表やイベントに活用できる多目的ホール、防音室

住民の健康を支える健康相談・測定機能

岩津地域の歴史・文化を展示・発信し、まちへの誇りや愛着を継承

⑤地域の足を支える『交通・インフラ』の整備と利便性向上

公共交通機関の利便性向上

防犯情報の発信

十分な駐車場、駐輪場

2.ワークショップの総括

岩津地域への深い愛着と、未来の暮らしをより安全で豊かに彩りたいという参加者の強い願いから、**“世代を超えたつながりを育む”**具体的な施設像が浮かび上がりました。

- 個別のグループワークでは、「大人から子どもまで誰もが気軽に立ち寄れる安心な居場所」であることや、「みんなが笑顔で健康に、つながりを大切にできる施設」であってほしいという、施設への期待が示されました。
- ギャラリーウォークでは、「多世代交流の場」や「子どもたちの遊び・学びの空間」への期待が共感を呼び、「不登校児童への支援」についても言及されました。
- 拠点施設に対する、「岩津の歴史・文化を活かした地域活性化」や「防災・福祉機能の強化」「交通利便性向上」への期待が集まりました。

ギャラリーウォークの様子

【グループワークで示された施設像】

- ☑ **世代を超えた交流を可能にするオープンスペースとイベント機能**
- ☑ **日々の暮らしを潤す利便性と、安心を提供する生活支援機能**
- ☑ **変化するニーズに対応可能な多目的空間と、スマートな利用環境**

美術館を巡るように多様なアイデアに触れ、会場全体で意見を共有

■ 第3回ワークショップの概要

テ ー マ:地域とつながる施設計画「みんなでつくる“わたしたちの拠点”」
目　　的:第1・2回で出た意見やアイデアを集約し、拠点施設に求める機能や役割の優先順位付けをする
　　参加者間で合意形成を図り、具体的な方向性を導き出す

1. 議論の主な成果

機能連携を意識した「優先度マップ」の作成と活発な議論を通じて、特に共感の高かった主要機能は以下のとおりです。

市民活動・文化発信機能
地域コミュニティの活力を育み、多様な活動を生み出す
⇒ 発表会、習い事など、多様な活動に対応できる空間

交流・休憩機能
多世代が気軽に立ち寄り、日常的な交流を生み出す
⇒ 長時間滞在できる「居場所」快適で利便性の高い空間

学習・仕事支援機能
多世代が学びを深め、スキルアップできる知的活動の場
⇒ 閲覧機能に留まらず、情報収集や交流も可能なライブラリ空間

健康・福祉支援機能
健やかな暮らしを支え、誰もが相談できる地域に寄り添う
⇒ 子育て世代から高齢者まで、様々な世代の相談窓口

子育て支援機能
子ども達の成長を見守り、子育て世帯をサポート
⇒ 未就学児から就学児まで子ども達が安心して自由に遊び、交流できる空間

安全・安心支援機能
地域の暮らしを守る心強い味方
⇒ 地震や風水害などの災害に備える、地域の防災・避難拠点機能

■全３回のワークショップの総括と今後の展望

3回にわたるワークショップを通じて、拠点施設には、単なる行政サービス提供に留まらず、これからの岩津地域の暮らしを豊かに彩るための役割を期待していることが明らかになりました。

☑ **「多世代共生・交流の場」の核**
⇒ 誰もが気軽に立ち寄れる安心な居場所として、多世代が交流し、ともに成長できるコミュニティの中核機能が強く求められています。

☑ **地域特性を活かした「持続可能な活動拠点」**
⇒ 豊かな自然や歴史といった地域資源を活かし、短期的な利便性だけでなく、30年後を見据えた持続可能な運営と、どんな人でも安心して気持ちよく使える設計が求められています。

☑ **「利便性と可変性」の確保**
⇒ 飲食機能の確保に加え、イベント・学習・活動に対応できる多機能空間により、変化するニーズへの柔軟な対応が求められています。

☑ **地域の「暮らしを守る心強い味方」**
⇒ 災害に強い防災拠点機能はもとより、健康・福祉相談や子育て支援を通じ、地域住民の暮らしを支える心強い味方としての役割が期待されています。

【今後の展望】

今回のワークショップで得られた豊富なアイデアや強い想いは、拠点施設が地域住民の自発的な活動を支え、人と人、世代と世代、そして地域と未来をつなぐ「結び目」となるための羅針盤です。

今後は、これら住民ニーズを、行政手続き・地域支援機能、市民活動支援機能、生涯学習支援機能、福祉相談機能とどのように連携・融合させるか、また各機能の具体的な配置や規模、運営体制を含めた実現可能性を検討します。

ワークショップを通じて紡がれた皆さんの想いを受け止め、「多世代共生」「安全・安心」「持続性」をキーワードに、魅力ある施設の具体的な実現に向けて引き続き検討を進め、令和8年度に策定を予定している基本計画に反映してまいります。

【連絡先】444-8601　岡崎市十王町二丁目9番地 ▸市民協働推進課 施設管理係 ☎0564―23―6661